

三条市地域公共交通計画 実施状況【令和6年度】

I 日常生活に溶け込む既存の公共交通の磨き上げ		現状値	令和6年度実施状況	今後の取組
デマンド交通「ひめさゆり」、循環バス「ぐるっとさん」の利便性の向上				
No. 1	AIオンデマンド交通導入とデマンド交通の全日運行	利用者数：56,920人 (うちAIデマンド利用者12,112人) (令和5年度)	利用者数：56,354人 (うちAIデマンド利用者31,096人)	前年度からは約600人の微減となっているが、下記No. 2のほか更なる取組を通じて利用促進を図る。
No. 2	多ユーザーに対する負担軽減策の検討	AIオンデマンド交通の利用料金の一部改定（LINE予約の利用料金引き下げや学割料金の導入）を検討する。	AIオンデマンド交通の利用料金の一部改定（LINE予約の利用料金引き下げや学割料金の導入）を行った。	今後必要に応じて、多ユーザーに対する負担軽減策を検討する。
No. 3	デマンド交通の新規利用者層の獲得や利用促進に向けた出張講座等の実施	41か所で実施（令和5年度）	65か所で実施	令和5年10月に開始したAIオンデマンドのーとさんじょうの周知のため、大幅に出張講座の実施箇所を増加した。今後も引き続き事務局が説明会に赴き、制度の周知に努める。
No. 4	循環バスぐるっとさんのキャッシュレス決済導入	キャッシュレス決済（PayPay）を導入（令和4年度）	新たなキャッシュレス決済は導入していない。 キャッシュレス決済利用率 9.4%	引き続きキャッシュレス決済（PayPay）を継続し、利便性の向上に努める。
No. 5	デマンド交通おでかけバス購入拡大	360人（令和5年度）	406人	令和6年度は、運転免許証返納時に112人に対しておでかけバスを無料交付した。今後も引き続き、更なる制度の周知を図る。
No. 6	デマンド交通おでかけバスの協賛店の拡大	55店舗（令和5年度）	引き続き市内店舗に対し協力を募集したもの、店舗数の拡大にはつながらなかった。 54店舗	上記No. 5のおでかけバスの利用が進み、それを受けて協賛店も拡大できるよう引き続き協賛店を募集する。
No. 7	バス待合環境の整備	地域公共交通の結節点である東三条駅前のバス待合所を整備（令和5年度）	隣接する東三条駅前駐車場で、キッチンカーの出店等を行い、場の魅力向上に努めた。	地域公共交通の結節点である東三条駅前付近や他の待合環境の整備を検討する。

三条市地域公共交通計画 実施状況【令和6年度】

Ⅱ 将来にわたり持続可能な地域公共交通の基盤整備		現状値	令和6年度実施状況	今後の取組
事業者生産性・行政負担額の最適化及びバス路線の再編				
No.8	生活交通路線の見直しの検討	路線バス利用者数 利用者数 142,396人（R4.10～ R5.9）	利用者の減少が見られた長岡線及び大面線の 一部を減便した。 利用者数 132,478人（R5.10～R6.9）	令和7年度からは加茂線を短縮し、保内地区までの路線とした。また福 沢線及び大面線を令和7年3月末で廃止とした。今後も事業の効率化 と利用促進を図る。
No.9	地域主体のコミュニティバス拡大の検討 【中間目標値：1地区、最終目標値：2地区】	1地区でコミュニティバスを運行	新たに導入したい自治会からの問合せなどはな かった。	過去に照会のあった自治会も、運転員の確保と燃料代等の運行費の捻 出が困難との理由で実現に至らないことがあった。当協議会として、今後も 自治体から問合せ等があった場合は、地域のコミュニティバス導入支援に 努めていく。
No.10	高校生通学ライナーバスの利用促進	高校生通学ライナーバス利用者数 4,774人（令和5年度）	市内全高校生及び周辺の大崎学園及び下田 中学校卒業生にチラシを配布した。 利用者数：5,426人	更なる利用促進を図るため、通学でバスを利用する機会の多い市内高校 の在学学生にチラシを配布するなど周知に努める。
No.11	鉄道の運行ダイヤ見直しの要望	—	JRへの要望を行った。	関係者の意見を踏まえ、引き続き要望を行う。
Ⅲ 最新技術の活用等による若年層や観光客を取り込む交通機能の充実				
まちなか、下田地域における二次交通の充実				
No.12	八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討	下田地区への路線バス利用者数 58,839人 （うち燕三条・下田 Outdoor Liner（アウトド アライナー）利用者1,204 人） （令和5年度）	下田地区への路線バス利用者数 46,401人 （うち燕三条・下田 Outdoor Liner（アウトド アライナー）利用者2,174人） 令和5年10月より下田地区で運行していた燕 三条・下田 Outdoor Liner（アウトドライ ナー）の実証運行が終了した。	燕三条・下田 Outdoor Liner（アウトドライナー）の実証運行は終了 したが、八木ヶ鼻温泉線の見直しの検討を引き続き行う。
No.13	送迎バスを活用したMaaS実証と観光企画の 検討	—	令和5年10月より下田地区で運行していた燕 三条・下田 Outdoor Liner（アウトドライ ナー）の実証運行が終了した。	MaaS実証として運行していた燕三条・下田 Outdoor Liner（アウトドライ ナー）の運行が終了したが、八十里越開通によるニーズを捉えつつ、新 たに観光を視野に入れた交通体系や観光ツアーや観光チケット等の企画 を宿泊施設等の保有する送迎バスや観光スポットへのデマンド交通停留 所の設置の検討を行う。
No.14	八十里越開通後の只見町方面の公共交通機 関の運行の検討	下田地区の地域交通資源の有効活用に関 する調査を実施した。（令和5年 度）	八十里越開通後の鉄道需要を鉄道事業者 に確認した。	時機を見て只見町側との話し合いを行えるよう引き続き対応を検討する。